

平成27年度 学校経営計画

1 教育目標

(1) 基本目標

「人間尊重の精神」を基盤に、激しい変化が予想される21世紀社会の担い手として、「心身ともに健康で、主体的に考え表現でき、ねばり強く頑張りぬき、自らの向上とよりよい社会の発展を目指し、たくましく生きる人間」の育成を図る。

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

『かしこく』 進んで学びよく考える子ども（基礎学力を身につけ、自ら考え進んで学習する。）

『なかよく』 思いやりがあり心豊かな子ども（相手の気持ちを考え、だれとでも仲よくする。）

『たくましく』 元気でがんばる子ども（心身ともに健康で、粘り強く活動する。）

2 学校経営の理念

テーマ「子どもの笑顔と活気があり地域に開かれた信頼される学校」

子どもの健やかな成長のためには、学校生活の中で、学習がよく分かる喜び、自分の役割が分かり居場所のある喜び、友達や先生と心が通い合う喜び、を味わわせることが大切であると考える。

そのためには、教職員一人一人が組織の一員としての自覚をもち、互いを思いやり、居がいのある職場の中で学校目標達成に向けて同僚性を発揮していくことが望まれる。まず大切にしたいのは「わかる喜び」を実感させることができる指導力を身に付けるということである。子どもの学力を育て、心を育てることができる教師でありたい。さらに、保護者や地域への時機を得た発信と共通理解の下での連携を推進し、地域に根ざした教育活動を展開することが大切である。その結果、子ども一人一人の中に自己実現の喜びや自己肯定感などが育まれ、子どもの笑顔が輝く学校となっていくことを目指したい。

3 学校経営の方針

[豊郷地域学校園教育ビジョン]

豊かな郷の生き生きとした子どもたち

－豊かななかかわりの中で自ら主体的に学ぶ児童生徒の育成－

(1) 学校運営の適正化

○教職員の学校経営への参画意識を高め、課題解決に向けて一人一人が考える組織づくり

○進捗状況、達成状況の把握と教育活動の工夫改善

○課題や問題、事故等に対して、組織的かつ迅速に対応

（学年会、いじめ・不登校対策委員会、校内支援委員会）

○組織内の意思疎通に努め、支え合う職場風土の醸成

(2) 教職員の資質の向上

○一人一授業公開による指導力向上及び学び合い

○積極的な研修への取り組み

○人権感覚の高揚、同僚性、協調性の発揮

(3) 学校学級経営の充実

○居がいのある学級づくり

○子どもの人間関係の構築

○子どもが安心して生き生きとした学校生活を送ることができる環境づくり

○いじめ防止対策の強化

(4) 学習指導の充実

○基礎基本の徹底

○よく分かる授業を目指し、日常の学習指導の一層の改善

○子ども一人一人がよく聞き、互いを認め合い、学び合いのある授業

(自己表現が堂々とできる子の育成)

○望ましい学習態度・学習習慣の形成・読書活動の推進

(5) 豊かな心の育成

○あいさつや返事の徹底(先手のあいさつ・にこハイ)

○「命あるものを大切にする心」、「思いやりの心」を育てる働きかけ

○豊かな心を育む教育環境の整備・充実

○毎日続けられることの実践(日記や朝の清掃等)

(6) 体力の増強と保健安全教育の充実

○基本的な生活習慣の徹底(よい姿勢・気をつけ・視力)

○子どもが主体的に取り組む体力づくり活動の推進(走力・投力・柔軟性の強化)

○食育の充実(担任及び栄養士)

(7) 児童指導の充実

○児童の心に寄り添った指導の推進(個々の子どもの理解、教育相談)

○全教職員の共通理解による同一歩調での指導の徹底

○人と関わる力や社会性を培う活動の充実

・基本的な生活習慣の定着

・縦割り班活動

○児童の主体的な活動の推進

・特別活動の深化と充実

○企画委員会、学年会、校内支援委員会の充実

(8) 家庭・地域との連携及び開かれた学校づくり

○小中一貫教育の推進

○魅力ある学校づくり地域協議会、地域人材の活用

○積極的な情報発信

○効果的な授業参観、オープンスクールの実施

4 今年度の重点目標(「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○)

(1) 学校運営

子どもの笑顔と活気があり地域に開かれた信頼される学校

(2) 学習指導

○基礎基本の徹底、自己表現が堂々とできる子の育成

(3) 児童生徒指導

○「先手のあいさつ」や「にこハイ」の実践、終始一貫続ける実践

(4) 健康(保健安全・食育)・体力

態度基礎訓練の実施、体育科の走力・投力・柔軟性の向上

5 学習指導，児童生徒指導，健康（保健安全・食育）・体力に関する取組

※ 様式2～4参照

6 特色ある学校づくり等に関する取組

（1）育てたい資質・能力

テーマ「地域から学ぶ学校」ー地域の人材や素材の活用を通してー

- ・ 学校や地域を愛し，人を思いやる心豊かな児童
- ・ 社会性を身に付けた個性豊かな児童

（2）具体的取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」に関する取組には文頭に◇）

- ・ 教育課程への位置づけと具体策

地域と関連する活動の実践と年間指導計画への位置づけ（各教科領域 総合的な学習）
連携した学習を推進するための体制づくり

◇学校・家庭・地域との連携を図った活動の充実

地域教材や地域在住の人材の活用による様々な体験や心の触れ合い活動の推進

◇各機関・企業との連携を図った活動の充実

- ・ 特色ある学校づくりについての保護者や地域への啓発

7 本市の重点施策・事業と関連する取組

（1）「小中一貫教育・地域学校園」に関する取組

- ・ 家庭での学習の習慣化を図る。
- ・ 地域学校園「あいさつ運動」による豊かな心と社会性の育成を図る。
- ・ 乗り入れ授業の効果的活用を図る。

（2）「地域とともにある学校づくり」に関する取組

- ・ 地域教材や人材を活用して活動の充実を図る。
- ・ 魅力ある学校づくり地域協議会との連携を図る。

（3）「宮っ子心の教育」に関する取組

- ・ 基本的生活習慣の定着を図る。
- ・ 組織的な道徳教育の推進を図る。

学習指導に関する取組

1 学習指導上の主な実態

(1) 学習内容定着度調査などから

○全国学力・学習状況調査から

国語、算数いずれにおいてもA・Bともに正答率が県及び全国を上回っている。特に算数Bでは領域別に見ても観点別に見ても大きく上回っている。しかし、国語Aの「読む能力」についてはわずかながら下回っている。基礎的・基本的な学力はおおむね定着していると言えるが、「読む力」にやや課題がある。

○とちぎっ子学習状況調査から

教科に関する調査から、4年の算数を除いて、各教科の基礎・基本に関する問題の正答率は県平均を上回っている。また、その基礎的・基本的な学力を活用して解く思考・判断・表現に関する問題の正答率は、両学年ともすべての教科で県平均を上回っており、全体的に学習内容の定着が図られている。しかし、領域別にみると算数の「数量や図形についての技能」にやや課題がある。また解答内容を見ると、「計算の意味理解」や「式のよみ取り・表し方」にも課題が見られる。

○学習内容定着度調査から

全教科・全観点において、正答率が宇都宮市の平均を上回っている。特に算数では、基礎、活用ともに高い正答率を示し、学力の定着が見られる。しかし、国語では文章の読み取りや漢字を書く力に、また理科では自然事象についての知識・理解にやや課題が見られる。

(2) 学習と生活についてのアンケートから

どの学年の児童も学習に対する興味・関心があり、「学習内容がとてもよく分かる」、「分かる」と肯定的に答えている。また、基本的な学習習慣や学習態度についてもおおむね身に付いていると言える。しかし、家庭学習については、意欲的に取り組み学習時間が十分に確保されている児童が多いが、学年差や個人差が大きく、意識が低い児童も少なからずいる。さらに、全体的に本好きの児童は多いが、実際には学年が上がるにしたがって、家庭で読書の時間を取ることができていない様子が見える。今後も家庭の協力を得ながら、家庭での学習や読書の習慣化を図っていきたい。

(3) 授業等への取組状況から

児童は全般に落ち着いて学習していて、与えられた課題については真面目に取り組むことができるが、次のような問題点もある。

- ・ 基礎・基本の定着度には大きな個人差があり、学習意欲が乏しい児童も見られる。
- ・ 自分から課題を見つけることや、友達の考えと比べたり関連させたりして、自分の考えを深めたり広めたりすることの苦手な児童が多い。
- ・ 表現することに消極的な児童が多く、全体的に、自分の考えを相手に分かりやすく伝える力が不十分である。

2 今年度の重点目標（地域学校園内で共通する重点目標は、文頭に○または該当箇所に下線）

- ・ 学習意欲の喚起と確かな学力のさらなる向上を図る指導

3 今年度の取組（地域学校園内で共通する取組は文頭に○、「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に☆）

（１） 基礎・基本の確実な定着

- ☆ 話の聞き方、発表の仕方など基本的な学習スキルの徹底（通年）
- ☆ 漢字や計算など、繰り返し学習の推進による基礎学力の向上（家庭学習、通年）
- ☆ 標準時数を上回る授業時数の確保
- 各教科等において、当該学年で身につけさせるべき、基礎的・基本的な知識・技能を確実に修得させる学習指導（通年）
- ・ 基礎・基本の習得に課題が見られる学習内容について、個に応じた補充指導（通年）

（２） 学習指導の工夫・改善

- ☆ 明確な課題提示や発問、丁寧な机間指導による「分かる授業」の実施（通年）
- ・ 学習意欲を高めるための教材提示や課題設定の仕方、展開、学習形態などの工夫（通年）
- 一人一人の表現力を高める指導と場の充実（通年）
- 友達と考えを深めたり広めたりできる学び合いの場の工夫（通年）
- ・ 習熟度別学習、少人数指導、Ｔ・Ｔ指導を取り入れた学習形態の工夫（通年）
- ・ 基礎・基本が十分身につけている児童に発展的な課題を持たせ、さらに力を伸ばすための教材の開発や展開の工夫（通年）
- ・ 言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成（通年）
- 小中学校９年間を見通した指導の系統性や適時性を考慮した指導（通年）
- ☆ 全国学力・学習状況調査、とちぎっ子学習状況調査、学習内容定着度調査、学習と生活についてのアンケートの公表（１１月 ３月）

（３） 読書活動の充実

- ☆ 全校生による朝の読書の実施（毎週２回）
- ・ 学習情報センターとしての学校図書館利用の推進（通年）
- ・ 各教科・領域及び総合的な学習の時間における学校図書館司書との連携（通年）
- ・ 様々な形での「読み聞かせ」や「ブックトーク」、「多読者表彰」等の読書意欲喚起のための取り組み（通年）

（４） 家庭・地域との連携・協力

- ☆ 学校の積極的な公開や、学校の情報の計画的・継続的な発信・提供（通年）
- ☆ 家庭学習の習慣化の大切さ、テレビ視聴やゲーム等の時間についての約束づくりについての話し合い（家庭訪問、学年・学級懇談会、個人懇談）
- 家庭と連携した取り組みの推進による、家庭学習の習慣化（通年）
- 発達段階を踏まえた校種間の円滑な接続と長期的展望に立った指導の推進（通年）
- ☆ 今日的な課題へ適切に対応できる能力の育成〈情報教育、環境教育〉（通年）「街の先生」などの学習ボランティアの協力を得た授業や学習支援の実施（通年）

健康（保健安全・食育）・体力に関する取組

1 健康（保健安全・食育）・体力に関する主な実態

（１）定期健康診断・元気っ子健康体力チェックから

- 定期健康診断の結果から見ると、う歯の罹患率が低く、高学年でも、う歯の罹患率が低く、治療率は高い。視力の低下傾向にある児童がとて多い。
- スポーツ振興センター災害給付対象児童が少なく、日常の保健室での処置は軽度な擦過傷が多い。
- 平成 26 年度の元気っ子健康体力チェックの結果を見ると、運動能力、体力のバランスが良くない児童が多い。投能力（ソフトボール投げ）に関しては、全国平均を下回っている学年が多い。また、柔軟性（長座体前屈）も劣る傾向にある。「走・投・跳」の基礎体力、中でも敏捷性や筋力・瞬発力を高める運動を多く取り入れていく必要があると思われる。

（２）元気っ子健康体力チェックのアンケート及び学習と生活についてのアンケートから

- 運動やスポーツが好きな児童は平均で90%近くいるが、運動に自信があるかという問いの答えは、学年間でかなりの差がある。
- 朝ごはんは、90%以上の児童が毎日食べていると答えている。
- 給食は、80%以上の児童が好き嫌いをしないで食べていると答えている。
- 睡眠時間は平均で9時間程度であるが、就寝時間は高学年になるにつれて遅くなり、22時から23時と答えた児童が30~40パーセントいる。

（３）授業や健康安全・体育的行事等への取組状況から

- 運動会は春に行われるが、全学年に表現種目があり、児童は熱心に練習に取り組んでいる。
- なわとびや持久走の練習の時期になると、休み時間に進んで練習している児童が多く見られる。
- ボール運動や一輪車が好きな児童が多い。その反面、ルールを守れない児童も見られる。安全面に気を付けて行動できるように指導していく必要がある。

2 今年度の重点目標（「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○）

- 運動に親しみながら、楽しく体力の向上を目指す児童の育成

3 今年度の取組（「小中一貫教育・地域学校園」に関する取組は文頭に○、「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に☆）

（１）望ましい食生活習慣の育成

- ☆ 学校給食における地産・地消推進事業(通年)
- ☆ 「とよおう水田」を利用した米作りと「なかよし農園」を利用した野菜作りを活用した特色のある給食
- ☆ 地域学校園の栄養士との連携による食育の推進とお弁当の日の実施（11月・12月）

（２）健康・体力の向上

- ☆ ミニマムの達成率の向上、季節ごとの重点運動の設定と実施
 - ・ 教科体育の時間内に短時間でできる、瞬発力や柔軟性を高める運動の導入
 - ・ 元気っ子健康体力チェック・各種検定の実施と保護者への結果報告
- 地域学校園の体力増強部会の方針を踏まえての補強運動（鉄棒・投力・走力の強化）
- 水泳検定カードの活用による泳力の強化

（３）家庭・地域との連携協力

- ☆ 保健だよりの発行(通年)と学校保健給食委員会の実施（10月）
- ☆ 地域ボランティアへの児童の登下校中や放課後の安全の呼びかけ(通年)

平成27年度 児童生徒指導に関する取組

1 児童生徒指導上の主な実態

(1) 問題行動等調査から

○児童の学校生活の中で遊び的な「ふざけ」や「からかい」からけんかやいじめなどに発展した事例があった。しかし、担任の早期発見・指導により「深刻ないじめ」に発展した事例はなく、すべて解決している。

○ほとんどの児童が仲の良い友達がいると思っている。また、おおむね先生は自分のことを理解してくれていると感じている。

(2) 学習と生活についてのアンケートから

○学校のきまりを守って生活しようという意識はある。しかし、廊下を走ってしまったり、時間が守れなかったりする児童の姿が見られる。規範意識が十分定着しているとはいえない。

○大多数の児童が学校に来るのが楽しいと答えており、明るくのびのびとした学校生活を送っている。学年・学級を問わず、楽しく共遊している。

(3) 学校生活の状況から

○「あいさつ運動」などで、呼びかけに対するあいさつは元気にできる。委員会を中心に昇降口での朝のあいさつ運動も実施している。場に応じた言葉遣いが上手にできなかったり、友人に対して思いやりに欠ける言葉を発したりする児童も見られる。自分ではあいさつをしていると感じているが、相手によく届く大きな声になるにはもう少し努力を要する。

○縦割り班活動など興味・関心があることに 대해서는 意欲的であるが、清掃など勤労奉仕的活動に対しては消極的な児童も見られる。

2 今年度の重点目標（地域学校園内で共通する重点目標は、文頭に○または該当箇所に下線）

- ・ 思いやりの心を持ち、ルールやマナーを守って行動する児童の育成
～規範意識を高め、自他を大切にしながら望ましい人間関係をつくれる児童の育成を目指して～

3 今年度の取組（地域学校園内で共通する取組は○印「学校教育スタンダード」に関する取組は☆印）

(1) 基本的生活習慣の育成

○☆多様な「あいさつ運動」を定期的に行い（委員会活動と連携）、全教員で「校内あいさつ強化当番活動」を実施（学期に1回ずつ）、「みんなのやくそく」の項目を生活目標に反映させて指導する。

○☆朝の会や帰りの会を利用して「みんなのやくそく」の指導を継続していき、規範意識を高める。

(2) 望ましい集団づくり

☆Q-U調査の結果を生かした学級経営

○☆道徳の時間や学級活動などでいじめや生命尊重を題材とした授業を実施

☆人権週間や読書タイムの充実

(3) 個に応じた指導の充実

☆定期的に「いじめ・不登校対策委員会」を開き、早期の対応・解決と情報交換を図る。

☆教育相談週間の実施（6月、12月）

☆児童の記録の活用、「子どもを語る会」を実施、学年会・職員会議での共通理解など、積極的に問題行動の児童理解に努める。